

特別支援学級国語科学習指導案

日 時 平成21年11月17日(火) 5校時
学 級 ○○中学校 ○○学級
1組5名・2組1名 計6名
場 所 ○○学級2組
授業者 (T1)・(T2)

1 単元 伝えよう 受け止めよう (電話)

2 単元について

(1) 単元について

様々な伝達方法がある中で、電話ほど便利なものはない。そのため、電話は私たちの生活の中で欠かすことのできない伝達手段の1つになっている。実際、連絡をしたいときや気持ちを伝えたいとき、電話の取り次ぎなど、実生活においても生徒たちは使えなければならない状況が、これから多々でてくることであろう。

また、本単元は、特別支援学校学習指導要領の国語の目標にある「日常生活に必要な国語についての理解を深め、伝えあう力を高めるとともに、それらを活用する態度を育てる」の達成のために適していると考えられる。

価値については、以下のように捉える。

ア 伝えたいことを、相手や目的に応じて適切な言葉で言い表そうとする態度を育むことができる。

イ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりする力を備えることができる。

ウ 相手の声に耳を傾け、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話そうとする気持ちを育むことができる。

エ 話の中から必要な事柄について、要点などをメモする力を備えることができる。

なお、けやき学級での国語は、支援度に応じて教室を分けて指導しているが、教科や単元によっては1・2組合同で学習するように年間計画を立てている。本単元は話し手と受け手の立場を明確にして、話し手と受け手の双方向で練習する機会を多くするために、合同での指導を行うことにした。

(2) 生徒について

本校には知的障がい学級に1年生3名、2年生1名、3年生1名が、自閉症・情緒障がい学級に2年生1名が在籍している。全員が男子で、個性豊かである。性格は皆温厚で、級友同士の交流もある。昼休みなどは本、テレビ、ゲームや好きなキャラクターを話題にして話が弾んでいる。ほとんどの生徒が身近な先輩を目標に「○○君のようにになりたい」と向上心をもって学習に取り組んでいる。活動が遅れがちな友達には「○○君××しよう」「××はこうするんだよ」等、誘い合いや教え合いが見られる。

しかしながら、課題に対する意識のもち方・思考・言語感覚・作業の手際など個人差が大きい。

「伝え合おう」とする意識が高い生徒がいる一方、聞く観点そのものをもてなかったり、周囲が分かるような話し方が十分にできない生徒もいる。言葉を選ばず(知っている語彙が少ないこともある)口ごもってしまう生徒が少なくない。「はっきり話す」を日常的に指導してはいるが、その定着にも個人差があることは否めない。そういう生徒においても、今後の生活を考えると、「電話」は、社会生活を営む上で必要不可欠なものである。それにもかかわらず、電話を回避したり、受話器を持ったときに手や声が震えたり、口ごもったりする生徒がいる。相手が見えない恐怖、適した言葉を使えないことの自信のなさからか、電話に関わる経験が多くはない。アンケートからも電話利用に関する興味関心が希薄で、自分の生活に関わる便利なもの、大切なものとは捉えていないことが明らかになった。必要に応じて電話を取り次いだり、活用したりできるようになることは、より豊かな生活への大きなステップとなると考える。

生徒	単元に関する生徒の実態		
	関心・意欲・態度	話す	聞く
A	電話に興味関心はある。一人で電話をかけることはない。伝言は単文であれば伝えることができる。	単語を誤って覚えていたり、助詞の使い方が正しくできないことがある。構音操作に誤りがある。	聞く観点をもてないため、話されたことについて理解しにくいところが見られる。
B	電話については自分から出ることはなく、誰かがそばにいて手渡すと答えるという程度である。言葉を繰り返して、何をするのか自分に納得させてから行動する。	言葉としての認識が希薄なため、文節を意識した話し方ができない。	1対1の話には反応するが、全体に言われたことには無関心になってしまう。メモはポイントをつかめず、全てを文で書こうとする。
C	家庭では、母親と電話で話したことが数回ある。電話の必要性について関心は希薄であり、消極的である。	口形がはっきりせず、話す速さが遅いが、気持ちを相手に伝えようと懸命に話す。	いろいろな言葉に子どもらしく反応し、説明された事について概ね理解できている。
D	家族の協力で電話に出られるようになってきている。電話は、一人でも使えるようになりたいと考えている。	舌の動きが巧緻的ではなく、発音に聞き取りにくいところがある。家の人に内容をきちんと伝えられなかったという経験もしているため、あまり積極的に話すほうではない。	緊張のあまり言葉を聞き逃してしまうことがある。メモはポイントをつかめず、全てを文で書こうとする。
E	ごく身近な人からの電話には出ているので、話せる喜びを知っている。進路に関わって電話をかけることにも興味をもち、是非理解したいと考えている。	相手にわかってもらおうと、ことばを工夫して話すことができるようになってきている。	興味をもちながら聞くことができる。不明な事は、聞き返せるようになってきている。
F	家庭では、電話の取り次ぎなどを行っている。電話については、学習する内容とは捉えていない。近い将来自分が必要になる道具であるとも捉えていない。	相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉を用いて話すことができる。発音は明瞭で、聞き手にとって捉えやすい話し方をする。	大事なことを落とさないようにしながら、興味をもつていくことはできる。メモについては5W1Hをとらえるときに戸惑う。

(3) 研究にかかわって

この単元は、表現力を高めるための3要素である「聴き取る力」「自分の考えを明確にする力」「表現したいことを確かに伝達する力」の全てを直接的に育むものと捉えている。

今回の教材は電話を用いることで、話し手・聞き手の立場が明確で、「刺激の受容→注意の集中→意味の割り当て→応答」のパターンがある程度限定され、活動する時に処理の仕方がわかりやすい。また、程度に応じて話題を広げることでもできる柔軟性に富んだ内容であると考えられる。

相手からの言葉を受容し、それを具体的な事物や現象と結びつけて理解することは、コミュニケーション能力を育むうえでも大切なことである。国語では、「話す・聞く」の学習活動をとおして言語を受容し発信すること、そして、語彙を広げ、文法体系を習得することを取り上げて指導していきたい。日常生活では、会話を取り上げてそのとき学習すべき視点に気付かせたり、毎日の日記や見学先へ礼状を書く等で、言語化、関連付け等の指導を加えることができると考える。語彙習得の上位概念、属性、関連語等の言語概念の形成をさらに図っていきたい。

個の実態に応じて課題設定をし、「できた」という経験と自信を持たせたり、コミュニケーションに対する意欲を高めたりして、言葉を生活の中で生かせるようにしていきたい。

3 単元の見目標

- (1) 伝え合おうという気持ちをもつことができる。 (関心・意欲・態度)
 (2) 相手に対して、適切な言葉を使うことができる。 (話す)
 (3) メモをとることの必要性を理解し、落ちなく聞いたり伝えたりすることができる。 (話す・聞く)

生徒	単元の見目標		
	関心・意欲・態度	話す	聞く
A	伝え合おうという気持ちをもつことができる。	口形に気を付けながら話すことができる。	大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くことができる。
B	伝え合おうという気持ちをもつことができる。	適度な間の取り方に注意して話すことができる。	大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くことができる。
C	伝え合おうという気持ちをもつことができる。	口の開きや声の大きさに気をつけながら話すことができる。	大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くことができる。
D	伝え合おうという気持ちをもつことができる。	口の開き、声量に気をつけながら話すことができる。	聞き取れないことを聞き返すことができる。
E	伝え合おうという気持ちをもつことができる。 メモをとることの必要性が理解できる。	言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに気を付けて話すことができる。 メモをとることの必要性を理解できる。	話の内容に気を付けて聞き、大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くことができる。
F	伝え合おうという気持ちをもつことができる。	場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる。 メモをとることの必要性を理解し、必要な事柄について調べ、落ちなく伝えることができる。	メモをとることの必要性を理解し、必要な事柄について調べ、落ちなく聞くことができる。

4 指導計画

時間	学習内容	ねらい	
		話す	聞く
2	電話について話し合う (課題作り・意欲の喚起)	話し合いの中から課題を作ることができる。 「電話で話せるようになりたい。だから、学習をがんばろう」という学習の意欲もつことができる。	友達の経験を聞くことができる。 自分の経験とあわせてきくことができる。
2 本時1/2	電話で用件を正しく伝えることができる。 － 電話のかけ手 －	落ちなく伝えるためには、メモ（観点：5W1H）を利用して話すことが大切であることがわかる。 伝えたいことを整理することができる。 相手にきちんと伝わる話し方ができる。	相手が何を伝えようとしているかわかるうとして聞くことができる
3	受けた電話の用件を正しくききとることができる。 － 電話の受け手 －	落ちなく伝言するためには、メモ（観点：5W1H）をしながら聞くことが大切であることがわかる。 相手にきちんと伝わる話し方ができる。	話されたことを観点別に整理し、メモをしながら聞くことができる。 相手が何を伝えようとしているかわかるうとして聞くことができる。
3	電話をかける時、出る時の言葉を理解し、使うことができる。 「もしもし」 「もしもし、※さんのお宅ですか。〇と申しますが◇さんをお願いします。」 ・「はい、ぼくです。」 ・「少々お待ちください。」 ・「出かけています。」 ・「もう一度お願いします。」	電話のときに用いられる決まり文句を覚える。 相手によって、話し方や返事の仕方が違うことがわかる。 自分の名前を明らかにして、かけた先を確認し、自分が話したい相手を申し出ることができるようにする。 場に応じて、答え方が異なることに気づき、相応の返事ができるようにする。	相手が何を伝えようとしているかわかるうとしてきくことができる。 留守の場合、「いつ・誰から・用件・用件」をメモする必要があることがわかる。
1	単元のまとめをする。	事後のアンケートをとり、事前のそれと比較することによって、生徒自身が自分の考え方の変容があったことを自覚し、自分の力の高まりを喜び合う。 感想を述べることができる。	友達の発表を聞くことができる。 自分の考えと比べることができる。

5 本時について

(1) 目標 「話すこと」

ア 正しく伝えるためには、メモをすることが大切であることがわかる。

イ 伝えたいことを整理することができる。

ウ 相手にきちんと伝わる話し方ができる。

生徒	本時の個人目標		
	ア	イ	ウ
A	他の人の考えから、メモをすることが大切であることがわかる。	家族に何（1つ）を伝えるかを整理することができる。	発音に気をつけながら話すことができる
B	他の人の考えから、メモをすることが大切であることがわかる。	家族に何（1つ）を伝えるかを整理することができる。	あわてずにゆっくりと話すことができる。
C	他の人の考えから、メモをすることが大切であることがわかる。	家族に何（1つ）を伝えるかを整理することができる。	言葉の強弱に注意しながら話すことができる。 話し方のまねをして話すことができる。
D	聞き手に伝えるために、必要な内容をメモすることの大切さを発言することができる。	伝えたいことをメモすることができる。	あわてずにはっきりと発音することができる。
E	聞き手に伝えるために、必要な内容をメモすることの大切さを発言することができる。	伝えたいことを5W1Hでメモすることができる。	モジモジすることなく、まとめたメモを見て、話すことができる。
F	聞き手に伝えるために、必要な内容をメモすることの大切さを発言することができる。	伝えたいことを5W1Hでメモすることができる。	まとめたメモを見て、ハキハキと話すことができる。

(2) 本時の構想

本時は、はじめて間もないところなので、個の目標については、「できること」の積み重ねを重視して進めていきたい。

「課題の設定」については、全員が課題を捉えることができるように T1・T2 による小劇をとおして困ったことなどの経験を想起できるようにしていく。課題が定まった後に、「伝えるときにも5W1Hを観点にして話をすると落ちなくできる」ことを予想として導きたい。

そして、「一緒に確かめる」では、5W1Hでメモを作成して予想が正しかったことを検証する。全員で、観点毎にメモにまとめる。メモをみて、順序よく話し伝え、落ちなくできたことを確認する。

「やってみる」では、能力に応じてグループを編成し、実際に自分で活動することで、メモを見て話すことの大切さを学ぶ。Iグループはメモする内容を2点とし、家族に「学校から伝言」する文章をもとに、メモを作成させる。IIグループはメモする内容を4点とし、Iグループと同様の設定でメモを作成させる。そして、「5W1Hのメモを使うこと」が落ちなく伝えることができる方法の1つであることを数回やって確かめたい。グループ毎に担任の話から該当の項目を抜き出してメモを作り、メモを見ながら相手に伝える活動を繰り返していきたい。このとき、自分から家族にあてた伝言であることを明確に伝えさせたい。

終末の感想では、生徒たちが「伝えることができた！」という成就感をもつと共に、「メモを見て話すことの有効性を実感できた」ことを期待したい。

一斉指導を展開するが、個のねらいによって到達目標も個別に設定し、評価についても個別に即時的に行うようにしていきたい。

(3) 指導展開

階	学習活動	学習の支援					
		A	B	C	D	E	F
12	<p>1 前時の想起 電話のかけ方、受け方について学習したことを想起する。</p> <p>2 学習課題の確認 T1T2が演じるミニ劇を見て学習の課題をつかむ。</p> <p>ワークシートに課題を記入する。</p>	前時の紙板書を利用し、想起を容易にする。					
		想起できたか確認する。	想起できたか確認する	想起できたか確認する。	想起したことを発言するするように促す。	想起したことを発言するするように促す。	想起したことを発言するするように促す。
12		ミニ劇を見ることで、困っていることを明らかにして、課題を意識づける。					
		電話をかける際に困ったことに気付くように、友達の発言をきくように声がけする。	電話をかける際に困ったことに気付くように、友達の発言をきくように声がけする。	電話をかける際に困ったことに気付くように、友達の発言をきくように声がけする。	劇を見て、何に困っていたかについて、考えるように促す。	劇を見て、何に困っていたかについて、発言するように促す。	劇を見て、何に困っていたかについて、発言するように促す。
		全員が課題を認識できたか確認する。					
		家族に電話で正しく伝えよう。					
30	<p>3 課題の追究</p> <p>ア 予想する 連絡事項を伝言するときに伝えなければならない内容は何かについて、観点をもつ。</p> <p><予想> ・5W1Hを観点にまとめる。 ・書く。 ・覚える。 など</p> <p>イ 一緒に考え、確かめる</p> <p>ウ やってみる = 2グループで=</p> <p>各グループに文章を提示「TがCに指示を出し、それをCがPに電話で伝える」設定</p> <p>・話し合い ・メモ作り ・メモしたことを確かめる。</p>	話したり伝えたりするときに大切な観点である5W1Hについて意識し、手がかりとなるように板書しておく。 「伝達事項をメモしておくとなお伝えることができる」ことを、ミニ劇を振り返ることで促していく。					
		書きとめれば忘れないことの想起を促す。	書きとめれば忘れないことの想起を促す。	書きとめれば忘れないことの想起を促す。	前時の板書を見ることで、5W1Hを観点に伝えたい事項を整理すればよいことを発言するように促す。	前時の板書を見ることで、5W1Hを観点に伝えたい事項を整理すればよいことを発言するように促す。	前時の板書を見ることで、5W1Hを観点に伝えたい事項を整理すればよいことを発言するように促す。
		予想をもとにどの方法が課題を解決することになるか、前時をふり返ることで、より適している方法を探り出すように促す。5W1Hで解決するように導き、観点のもち方を確認する。					
		一緒に考えたことをもとにして、T1T2の指導のもと効率よく個のめあてを達成できるように、グループを2つに分ける。					
		I グループ (T2) メモする内容が2点			II グループ (T1) メモする内容が4点		
		場面について話し合い、メモする内容を確認するように促す。 丁寧に書くように声がけする。 大きくなりやすい声はおさえるように促す。	場面について話し合い、メモする内容を確認するように促す。 丁寧に書くように声がけする。 慌てずはっきり読むことを声がけする。	場面について話し合い、メモする内容を確認するように促す。 みんなから遅れないで記入できるように声がけする。 話す順番を忘れないように声がけする。	話し合いの中で整理の仕方を確かめる。 丁寧に書くように声をかける。 はっきりと話すことが大切であることを声がけする。	5W1Hを観点に伝えたい事項を整理できた(メモ作り)か確認する。 できていない場合は、話し合いの中で整理の仕方を確かめる。 発声が小さくならないように声がけする。	5W1Hを観点に伝えたい事項を整理できた(メモ作り)か確認する。 できていない場合は、話し合いの中で整理の仕方を確かめる。 はっきりと丁寧に伝えることができるか確認する。
		課題・予想にそった内容で発表できるように意識付けを行う。 グループ代表の発表を見て、生徒同士で達成感を共有しあうことができるように、全員の発言を促す。					
		友達のよいところに気付くように声がけする。	友達のよいところに気付くように声がけする。	友達のよいところに気付くように声がけする。	各人のよいところを発見し、発表するように促す。	課題・予想にそった内容で、各人のよいところを発見し、発表するように促す。	課題・予想にそった内容で、各人のよいところを発見し、発表するように促す。
8	<p>4 学習のまとめ 自己評価をワークシートに記入する。</p> <p>5 次時の予告</p>	5W1Hを観点にしたメモを見て連絡をすればよいことが分かったか、確認する。 簡単に自分の感想をまとめることができるように書く時間を確保する。 生徒の感想を繰り返す、その発言を認めるようにする。					
		活動したことを丁寧に書くように声がけする。	活動したことを丁寧に書くように声がけする。	ことばを紹介して、周りと同じ時間に書き終わるようにする。	活動したことを丁寧に書くように声がけする。	自信をもって一人で書くように励ます。	自信をもって一人で書くように励ます。
		3つの目標の観点について評価する。 ア 伝えるためにはメモをすることが大切であることがわかったか。 イ 伝えたいことを整理することができたか。 ウ 相手にきちんと伝わる話し方ができたか。					
		本時の続きで、伝える内容を1つ増やして学習することを知らせる。					